

平成29年度第1回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録（要旨）

- 1 日 時 平成29年7月26日（水）午後1時30分～午後3時00分
- 2 場 所 千葉競輪場4階多目的室
- 3 出席者 （委員）
篠崎委員長、藤本委員、高岡委員、山本委員
（事務局）
柏戸経済部長、鴻崎所長、酒井所長補佐、山本主任主事
鈴木主任主事
（日本写真判定株式会社 以下「JPF」）
吉川部長、荻原統括マネージャー、邊田所長、高橋所長代理、青野
- 4 議 題
（1）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（4月～6月）
（2）その他
千葉競輪場の現状について
- 5 会議経過
（篠崎委員長）
議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、JPFに説明を求める。

（JPF）
（市営競輪の開催について）
 1. 第1回千葉市営競輪FⅡ（4/12～4/14、4/26～4/28）
 - ①FⅡ（4/12～4/14）
 - ・電話投票の売上向上のために「キャッシュバックキャンペーン」を行った。
 - ②FⅡ（4/26～4/28）
 - ・プレミアムフライデーと重なった開催最終日に、アフターナイトパーティーという競輪選手とファンの交流イベントを開催した。参加者は子供を含む31名で、選手とゲームや食事で交流した。
 - ・電話投票の売上向上のために「キャッシュバックキャンペーン」を行った。
 2. 第2回千葉市営競輪報知新聞社杯グラントチャンピオン500 FⅠ（5/10～5/12）
 - ・予想会及び抽選会を実施した。
 - ・JPFスタッフが料理を作ってお客様に提供するCKBカフェを出店した。豚汁

100円など、リーズナブルでおいしいものを提供しようと心がけており、売り切れになる商品が多い。

- ・子供向けイベントとしてミニ四駆フリー走行会を実施した。約20名が参加し、参加者の親も一緒に楽しめるイベントとなった。
- ・電話投票の売上向上のために「キャッシュバックキャンペーン」を行った。

3. 第3回千葉市営競輪FⅡ (5/22～5/24、6/6～6/9)

①FⅡ (5/22～5/24)

- ・バンク内で、新人選手3人を紹介し、競輪大学内でファンサービスを実施した。
- ・千葉競輪体験ツアーを実施し、11名が参加した。
- ・個人協賛レースを実施した。(5/22 第10レース)
- ・電話投票の売上向上のために「キャッシュバックキャンペーン」を行った。

②FⅡ (6/6～6/9)

- ・個人協賛レースを実施した。(6/8 第10レース)
- ・電話投票の売上向上のために「キャッシュバックキャンペーン」を行った。

(イベントについて)

- ・4月23日に茂原ツインサーキットで開催された第6回GSR（グッドスマイルレーシング）カップに参加した。JPFのスタッフ3名と日本競輪選手会千葉支部から加賀山選手が参加し、3本ローラーやワットバイクというトレーニングマシーンを体験できる千葉競輪場のブースを出展して広報活動を行った。
- ・第2回キッズケイリンを5月27日に開催した。参加者は、14名のお子さんたちで、ケイリンを楽しめるイベントとなった。終了後バーベキューを行い、自転車好きな家族に千葉競輪場を広報した。
- ・プランターでサツマイモなどの農園体験を実施した。実施にあたり地元自治会に告知した。11月上旬に、収穫して、バーベキューなどを開催する予定。
- ・椿森中学校の生徒の職業体験を受け入れた。生徒は、スタジオ、力仕事、自転車の整備等、競輪場の業務を体験した。
- ・6月24日に視覚障がい者と健常者の融合を目的とした二人のタンデム自転車試乗会を、千葉サイクルクラブと合同で開催した。

(千葉サイクルクラブについて)

自転車競技能力向上を目的としてクラスを新設した。オリンピック強化選手と大学体育会自転車部出身のスタッフ2名が指導者となり、参加者は、本格的な練習メニューを体験した。

(新たな演出について)

7月から競輪場内の「ご来場ありがとうございます」、「喫煙は喫煙所で」といった場内放送を、声優でお馴染みの神谷明さんの声で放送している。

(施設等の修繕について)

競輪場施設の走路のひび割れについて、専門業者に頼らず、施設グループで修繕を行った。走路中央付近のイエローラインは選手が一番走る部分なので、重要ポイントということで最初に修繕を実施した。走路内側の退避路付近など、ひび割れが発生している部分を、順次修繕していく。

空調機の老朽化に伴う不具合について、大規模な不具合につながらないように、修繕を進めていく。

(テレビ業務について)

選手名のテロップをより見やすく工夫した。

千葉競輪場内のCS番組内で、出演者後方に複数のサイドモニターを設置して、表彰式などの映像やお知らせが同時に放送できるように改善した。

(統制業務について)

全国的に、発売締切時間を短くするという事で、各場でリハーサルを実施した。千葉競輪場では5月17日にリハーサルを実施し、問題なく運営できた。

(売上・事業計画進捗報告)

平成28年度の最終的な車券売上額及び場外開催での収入状況は、本場開催の車券売上が約114億円、場外収入は約1億9千万円で、それぞれ目標額の120億円、1億9千9百万円に届かなかった。

平成29年度の千葉市営競輪開催の売上について、4月から6月までは、本場開催の車券売上が約13億円で、目標額の10億2千万円を達成したが、場外収入は約2千500万円で、目標だった2千600万円の少し届かなかった。

本場開催について、4から6月まで、平成27・28年度と比較すると前年度比で電話投票の売上がすべて100%以上となり、全国平均を超えて推移している。

場外開催について、平成27年度、平成28年度の場外開催の発売日数及びグレード別の発売状況については、GI・GIIに関しては売上が上昇している。これはGWやお盆とGI開催が重なったこと、GIIに関しては28年度から1開催増えたことが、売上上昇の要因かと思われる。GIIIについては、千葉に限らず全国的に売上が厳しい状況である。FI開催に関しても、売上は厳しいが、1日の平均単価は上昇している。お客様認知度の低い選手が出走する西日本開催よりも、馴染みのある選手が多く出走する東日本

地区の競輪場の開催の発売を多くした結果と考えている。

(ネクストステップについて)

本格的トラック競技大会を9月23日に実施する予定。今度はトラック競技大会ということで、より競技志向の強い自転車イベントを開催する。

タンデム自転車など、スペシャルオリンピックスとの共同開催について調整中。スペシャルオリンピックスは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間通じて提供している国際的なスポーツ組織。日本の理事長は元フルマラソンメダリストの有森裕子氏。

(千葉競輪開設68周年記念滝澤正光杯GⅢ (以下「千葉競輪開設記念」) について)

電話投票の売上向上策として、「ROAD TO 千葉記念キャッシュバックキャンペーン」を実施している。5月開催から開催直前までの本場開催毎の電話投票の売上に応じて金額を積み上げ、その総額を開催のキャッシュバック額とする。現在の総額は170万円。開催まで継続することで、電話投票の売上向上策として、千葉競輪開設記念でこのキャッシュバックを使う予定。

本場の来場者向けに、場内で楽しめるイベントの企画を現在検討中。

(審判について)

8月開催からJKAの走路審判が4名体制からバックストレッチ側のみの2名体制になる。4つの審判塔に回転灯を設置し、外部からのリモコン操作で回転させて、審議箇所を知らせる。

審判に関わる業務になるので、JKAと連携して、トラブルが発生しないように進めていく。

(篠崎委員長)

議題(1)包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、市にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 山本主任主事)

- ・受託者から提出のあった平成29年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・開催ごとに、4月から6月までの開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(篠崎委員長)

FⅡ開催時の「プレミアムフライデー企画」の反応について説明を求める。

(JPF)

15時以降にロイヤルルームへの来場者は使用料無料ということを、自治会宛にお知らせした。プレミアムフライデー目的の来場者は2名だった。今後、ニュース等でプレミアムフライデーのような国主導で進める実施事項に関しては、どんどん取り入れていきたい。

(篠崎委員長)

車券売上、あるいは場外収入の計画は途中までだが、どんな意味があるのか。

(JPF)

日程が上期下期で決まる仕組みのため、本場場外開催の日程が、10月の千葉競輪開設記念開催以外の日程が確定していないため、記載していない。

(事務局 鴻崎所長)

下期の日程はまだ公式には発表されていない。各競輪場ごとに決められた競輪開催節数が、1年間に15節46日。千葉競輪場は、上期が11節33日開催を予定している。下期については、千葉競輪開設記念開催を含めて4節開催する予定。今年度は、前倒しで上期に11節を開催した。下期については残りの4節を12月までに開催する予定。場外発売についても全国の競輪場の開催が発表されてから決定する。

(篠崎委員長)

なぜ、電話投票に着目できたのか。

(JPF)

千葉競輪場の売り上げを分析し、電話投票売り上げの対策を検討したことから、このキャンペーンの実施に至った。

競輪の特色として、主に2～3名が同地区からなるチームを組んで「ライン」を作る。ライン同士の戦いが車券購入の大きな要素になる。また競輪場の周長は333m、400m、500mの3種類あるが、電話投票の売上の構成では、400mの競輪場が一番多い。

売上の平均を出してみると400mの競輪場での売り上げが一番多い。次に333m。周長が短くて直線が短く、ラインで決まりやすく予想しやすいというイメージがある。千葉競輪場のように500mだと直線が長く、ラインに関係なく決着してしまうイメージが強いため、客単価も低く、売上額も低い。電話投票で千葉競輪場を選んでもらう動機づけとして、4月から本場開催時にキャッシュバックキャンペーンを実施し、客単価と利用者を上げていくことを狙い始めた。協力場外で売るよりも、電話投票で売の方が利益率が高いこともあり、収益を上げていくためには、とても重要な要素だと考えてい

る。

(高岡委員)

先ほどの件に関連して、電話投票の比率がそういった工夫によって上がってくると、協力場外の売上がその分減ることはあるのか。

(JPF)

電話投票のお客様はどこにいても投票できる。競輪場に入場して購入する客層とは、基本的に重複しないと考えており、協力場外での売上が減ることはないと思う。

(高岡委員)

電話投票の売上額が上がって、他の収入源に影響なく全体の売上も上がるということか。

(JPF)

そのように考えている。今まで千葉競輪に投票していなかったお客様の目を千葉競輪に向けさせ、電話投票で車券を購入指定もらうことが一番重要だと思っている。さらに、インターネットでの広報も試みていこうと思っている。

(篠崎委員長)

キャッシュバックキャンペーンは、千葉競輪場独自のものか。

(JPF)

競輪業界ではあまり聞いたことがない。以前であれば千葉競輪開設記念の告知も8月くらいからポスターやリーフレットを送っていた。今年は5月からキャッシュバックを行って、どんどん千葉競輪場を注目してもらい、最終的に千葉競輪開設記念に注目度をピークに持っていきたい。

(藤本委員)

今のインターネット投票については本場開催のみか。

(JPF)

そのとおりである。

(篠崎委員長)

議題1について了承。

議題2のその他について、事務局に説明を求める。

(事務局 鴻崎所長)

(新しい競輪の現時点における検討状況について)

- ・ 250 競輪については、包括委託先の日本写真判定（株）から提案を受けて、日本写真判定（株）が千葉競輪場の敷地の中で、施設整備費を負担を負担して、国際規格の自転車競技トラック（周長 250m、屋内、木製）を有する多目的競技場を設置する内容。
- ・ 競輪場の除却で現千葉競輪場を使用できなくなる、平成 30 年度以降に開催する市営競輪については、他の競輪場を借り上げる形で開催することを検討している。現在でも熊本競輪では、熊本地震の影響で久留米競輪場等を借り上げる形で市営競輪を開催している。また、近隣の競輪場では、東日本大震災の時に取手競輪場が被災したことから、施行者である茨城県が松戸競輪場で借上げ開催を実施した経緯がある。千葉市も、新施設が完成するまでは市営競輪の借上げ開催を行う方針。この件に関しては本年度の 9 月末までに正式に発表する予定。
- ・ 250 競輪の実施に関しては、関係団体である JKA、全国競輪施行者協議会、日本競輪選手会、監督官庁の経産省と意見交換をしながら、昨年 12 月から検討を進めてきた。競技の実施を管轄する JKA においても、今年の 3 月に、国際規格の競技ができる国内唯一の施設である伊豆ベロドロームで試走を行った。
- ・ 競輪業界団体で構成する最高意思決定機関である「競輪最高会議」の下部組織として、今年の 4 月に 250 KEIRIN ワーキンググループが設置された。施行者の団体である全国競輪施行者協議会でも 6 月にワーキンググループを設置した。
- ・ 現在、千葉市は、250 競輪を公営競技として運営するために、施設整備や国有地を含む競輪場の敷地の取り扱いなどを庁内で検討している。今までは、競輪事業の廃止と新しい競輪の実施の双方で検討を進めてきたが、7 月 5 日の市議会で 250 競輪に軸足を置いた検討を開始したと発表した。内容的にはまだまだ検討事項があるが、競輪業界として 250 競輪について前向きに動いているため、千葉市も前向きに検討を進めていきたいと考えている。
- ・ 今年 2 月に伊豆ベロドロームで日本競輪選手会千葉支部の協力で実際に試走した映像を放映する。

《動画》

（事務局 鴻崎所長）

- ・ 千葉競輪開設記念の冠として名前を使用している滝澤正光氏は、現在、伊豆の競輪学校の校長として生徒を指導する立場にある。滝澤校長は、競輪学校の 100 期以降の選手であれば走れるだろうとの見解である。
- ・ 千葉競輪がこのまま廃止になるのか、新しい 250 競輪に向けて舵を切るのか正式には決まっていない。
- ・ 国際規格で行う 250 競輪というのは前例がないため、競技の方法など今後決めるべ

きことがあるが、千葉市としては競輪事業の存続に向けて検討する。

(高岡委員)

具体的な新施設の青写真みたいなものはあるのか。

(事務局 鴻崎所長)

ない。設計やスケジュールについては、千葉市として発表できる時期に示す。

(藤本委員)

新施設の整備に何年くらいかかるのか？

(事務局 鴻崎所長)

新施設の整備については、2年から3年くらいかかる予定。現在の施設の取り壊しにも時間がかかる。現時点では、現施設を除却して、新施設整備までメインスタンドで場外発売を続ける予定。

(篠崎委員長)

了承。